大桃の舞台

駒嶽神社の境内にあり、明治二十八年七月九日の再建である。

舞台の中央部には固定式二重、二層機構の舞台であり、上の二重の前後には唐紙を入れることができる。その奥は二重下の面と同じ高さに床が張られていて楽屋になっている。花道は上演時に設けられる。もとは舞台上手に張り出してゲザと呼ぶ太夫座が常設されていたというが現在はなく、上演時に仮設される。習芝居は明治四十年までで、以後は買芝居を上演し毎年三回の宮籠りにも使用される。農村舞台の一典型をなすものとして重要である。

舞台　間口七・六四メートル、奥行八・五六メートル、小廂（ひさし）付切妻造り、茅葺

国指定　重要有形民俗文化財

所在地　伊南村大字大桃字居平一六四番地

管理者　大桃区

指定年月日　昭和51年8月23日